

F-REIの事業紹介

～未来を拓く科学技術力・産業競争力の
拠点を目指して～

令和6年6月30日（日）

福島国際研究教育機構



Fukushima Institute for Research, Education and Innovation (F-REI)

福島国際研究教育機構 (F-REI) (令和5年4月1日設立) の概要

福島国際研究教育機構 (以下「機構」) は、**福島をはじめ東北の復興を実現するための夢や希望**となるものとともに、**我が国の科学技術力・産業競争力の強化を牽引し、経済成長や国民生活の向上に貢献する、世界に冠たる「創造的復興の中核拠点」**を目指す。

内閣総理大臣
文部科学大臣
厚生労働大臣
農林水産大臣
経済産業大臣
環境大臣

主務大臣として共管

7年間の中期目標・中期計画

※機構が長期・安定的に運営できるよう必要な予算を確保

福島国際研究教育機構(F-REI)

Fukushima Institute for Research, Education and Innovation

(福島復興再生特別措置法に基づく特別の法人)

理事長: 山崎光悦 (前金沢大学長)

理事長のリーダーシップの下で、研究開発、産業化、人材育成等を一体的に推進

- 研究者にとって魅力的な研究環境 (国際的に卓越した人材確保の必要性を考慮した給与等の水準などを整備)
- 若手・女性研究者の積極的な登用

国内外の優秀な研究者等

将来的には数百名が参画

研究開発

- 福島での研究開発に優位性がある下記5分野で、被災地や世界の課題解決に資する国内外に誇れる研究開発を推進

産業化

- 産学連携体制の構築
- 実証フィールドの積極的な活用
- 戦略的な知的財産マネジメント

人材育成

- 大学院生等
- 地域の未来を担う若者世代
- 企業の専門人材等

に対する人材育成

司令塔

- 既存施設等に横串を刺す協議会
- 研究の加速や総合調整のため、一部既存施設・既存予算を機構へ統合・集約

機構が取り組むテーマ ※新産業創出等研究開発基本計画 (R4.8.26策定)

【①ロボット】

廃炉にも資する高度な遠隔操作ロボットやドローン等の開発、性能評価手法の研究等



過酷環境に対応するドローン・ロボット

【②農林水産業】

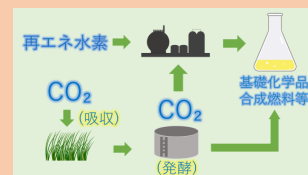
農林水産資源の超省力生産・活用による地域循環型経済モデルの実現に向けた実証研究等



農林水産業のスマート化 (農機制御システム)

【③エネルギー】

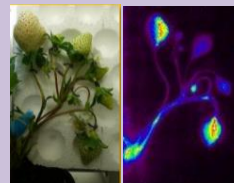
福島を世界におけるカーボンニュートラル先駆けの地にするための技術実証等



カーボンニュートラルの実現 (バイオ・ケミカルプロセスによる化学製品等の製造)

【④放射線科学・創薬医療、放射線の産業利用】

放射線科学に関する基礎基盤研究やR Iの先進的な医療利用・創薬技術開発及び、超大型X線CT装置による放射線産業利用等



放射線イメージング技術の研究開発

【⑤原子力災害に関するデータや知見の集積・発信】

自然科学と社会科学の融合を図り、原子力災害からの環境回復、原子力災害に対する備えとしての国際貢献、更には風評払拭等にも貢献する研究開発・情報発信等



復興・再生まちづくりの実践と効果検証研究

<機構及び仮事務所の立地>

円滑な施設整備、周辺環境、広域波及等の観点から、以下に決定

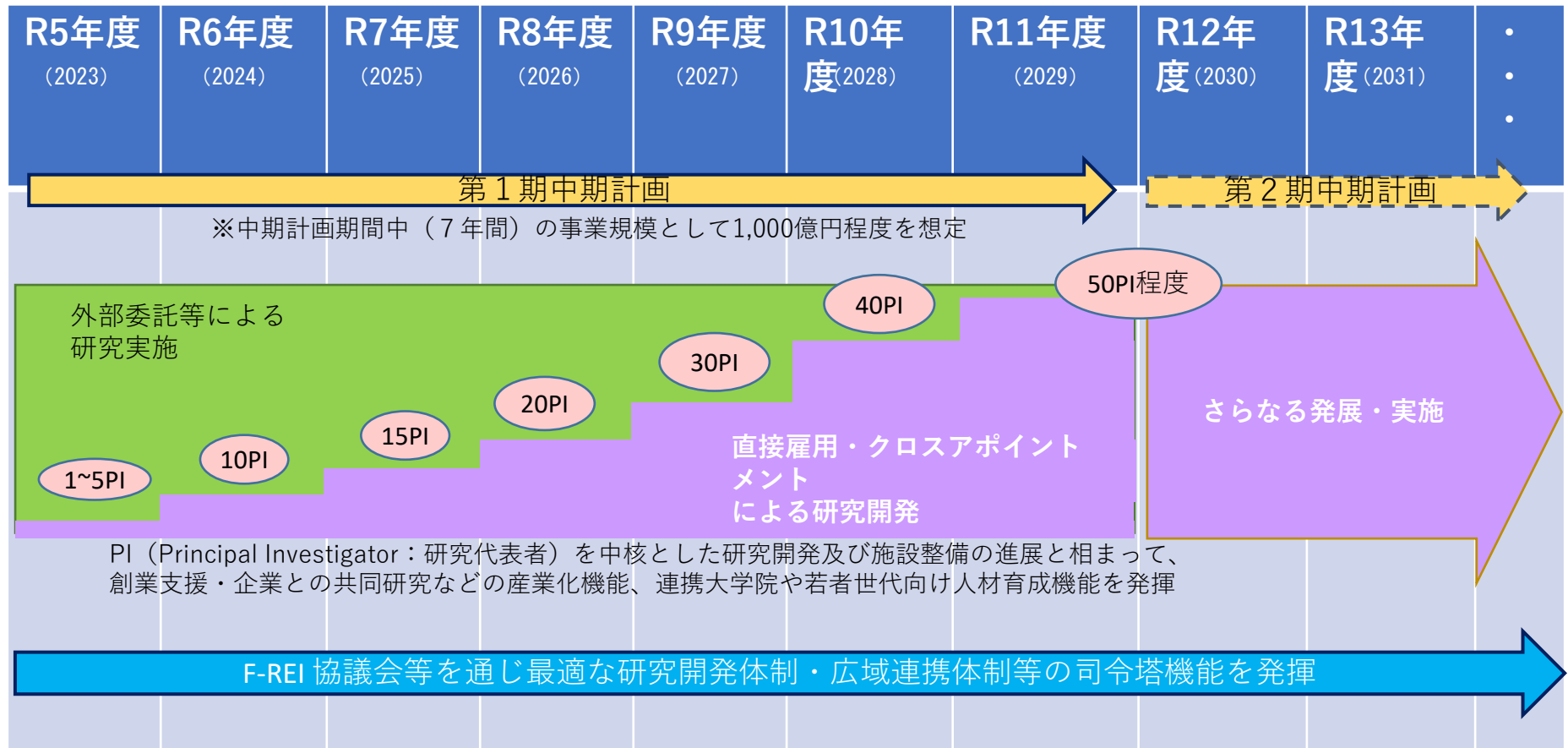
本部: ふれあいセンターなみえ内

本施設: 浪江町川添地区

福島国際研究教育機構の設置効果の広域的な波及へ

- 機構を核として、市町村、大学・研究機関、企業・団体等と多様な連携を推進
- 浜通り地域を中心に「世界でここにしかない研究・実証・実装の場」を実現し、国際的に情報発信

F-REI ロードマップ（イメージ）

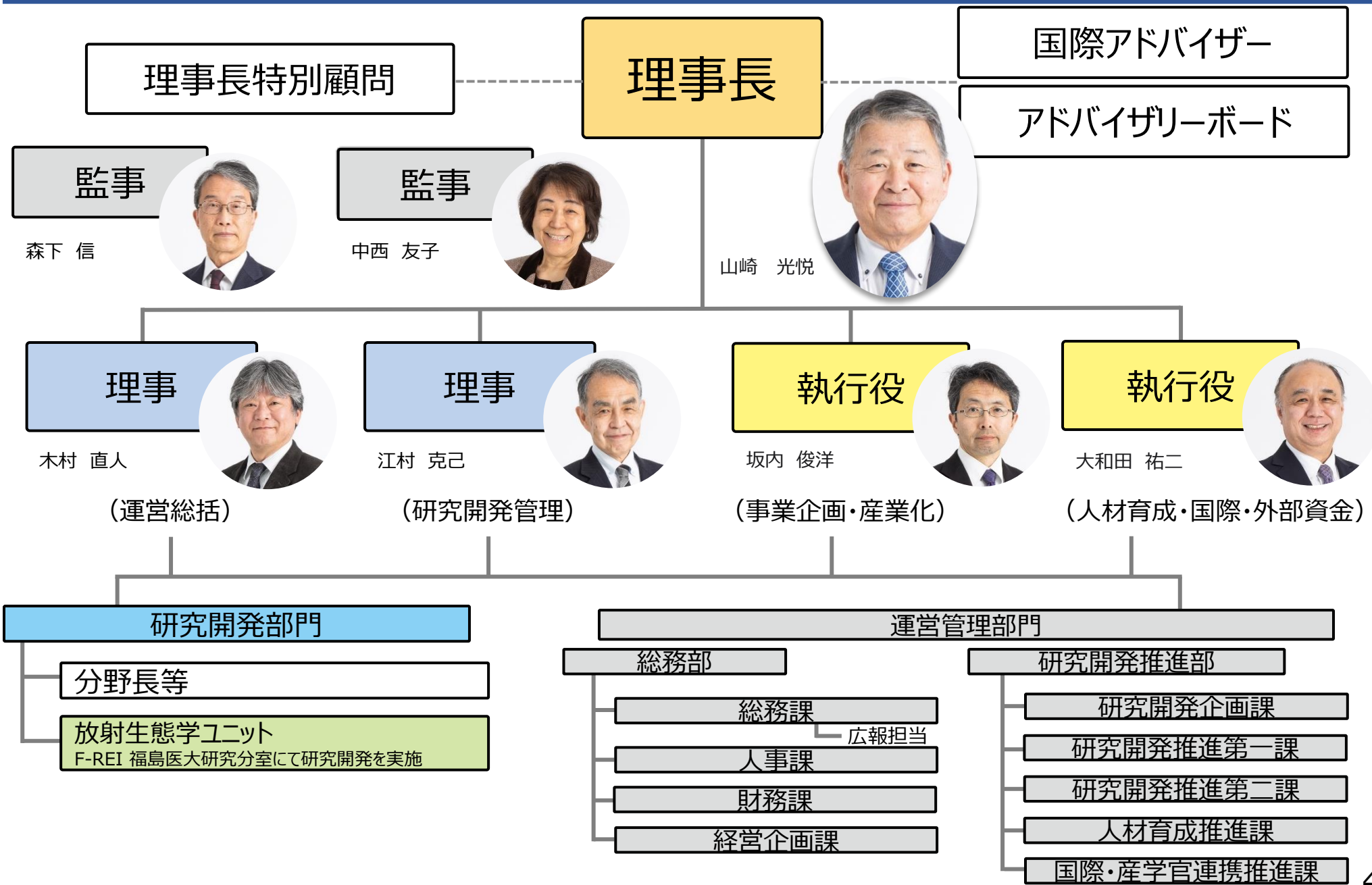


施設整備

復興庁設置期間内での順次供用開始を目指すこととし、さらに可能な限りの前倒しに努める

- 施設基本計画のとりまとめ、都市計画手続き
- 基本・実施設計、用地取得（用地取得予定面積：概ね14ha）
- 造成工事
- 建設工事 → 竣工後順次供用開始

福島国際研究教育機構（F-REI）の組織体制について

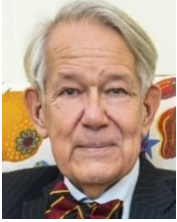


国際アドバイザー

概要

国際アドバイザーは、理事長の求めに応じて、機構の業務について国際的ネットワーク形成、国際的プレゼンス向上、その他の国際的観点から助言するもの。

(アルファベット順)

	スヴァンテ・ リンドクヴィスト 博士	スヴァンテ・リンドクヴィスト博士は、科学技術史学の国際的に著名な研究者で、スウェーデン王立アカデミー会長(2009-2012)や、スウェーデン王宮府長官(2010-2018)を務めました。またスウェーデンのストックホルムにノーベル博物館を創設し、初代館長を11年間にわたり務めました。日本とスウェーデンの学術交流にも大きく寄与しており、日本学士院客員も務めています。
	ライムント・ ノイゲバウアー 博士	ライムント・ノイゲバウアー博士は、ドイツに拠点を置き世界をリードする応用研究機関であるフラウンホーファー研究機構の理事長(2012-2023)を務めました。ノイゲバウアー博士はドレスデン工科大学で機械工学を学び、フラウンホーファー工作機械・成形技術研究所長(1994-2012)やケムニッツ工科大学(TU Chemnitz)工作機械・生産過程研究所所長(2000-2012)を務めました。ノイゲバウアー博士は、2022年からドイツ首相未来評議会委員を務めています。
	フィオナ・ レイモン 博士	フィオナ・レイモン博士は原子力分野において30年間にわたり戦略的・運用上の貢献をしてきました。化学・工学の専門家として英王立工学アカデミー、英王立化学協会、及び英国立原子力研究所のフェローを務めています。国際原子力会議において、定期的に基調講演を行っているほか、経済協力開発機構/原子力機関(OECD/NEA)運営委員会副議長も務めています。また、科学における参加の多様性拡大を長年支援し、原子力分野における女性や障害者などの参加の取組を先導しています。
	スブラ・ スレッシュ 博士	スブラ・スレッシュ博士は、材料科学・工学、機械工学、生物工学及び健康科学技術の分野における国際的に著名な研究者であり、米国国立科学財団(NSF)の長官(2010-2013)を務めました。スレッシュ博士のリーダーシップの下、NSFのプログラムやイニシアチブにより、米国は科学・工学の最先端にあって、次世代の科学者・工学者を育成し、経済成長とイノベーションを進展させました。また、スレッシュ博士はカーネギーメロン大学学長(2013-2017)及び南洋工科大学学長(2018-2022)を歴任しました。

アドバイザーボード

概要

アドバイザーボードは、F-REIが委嘱したアドバイザーより、大所・高所からの助言等をいただき、F-REIの運営や各研究開発等の参考とするもの。

アドバイザー

4名のアドバイザーを2023年7月に委嘱（任期2年）



石村 和彦（いしむら かずひこ）

産業技術総合研究所理事長



永田 恭介（ながた きょうすけ）

筑波大学長



原山 優子（はらやま ゆうこ）

東北大学名誉教授



山名 元（やまな はじむ）

原子力損害賠償・廃炉等支援機構理事長

実施状況

令和5年10月13日 第1回アドバイザーボード（於：東京）

令和6年2月21日 第2回アドバイザーボード（於：浪江町）
【実施予定】

令和6年7月23日 第3回アドバイザーボード（於：東京）

直近の概要

令和6年2月21日 第2回アドバイザーボード（於：浪江町）

- F-REIから最近の動向等についてご説明を行ったのち、研究5分野の方針等について、アドバイザーとの活発な意見交換を通じて有意義なご助言をいただいた。
- アドバイザーボードの前後にはアドバイザーの方々に浜通り地域の施設等を視察いただき、地域に対する理解を深めていただいた。



理事長特別顧問

概要

理事長特別顧問は、理事長の求めに応じて、機構の業務について、それぞれのご知見・ご経験に基づいた情報を助言するもの。

(五十音順)

	なんば ともこ 南場 智子	1990 ハーバード大学MBA（経営学修士）取得 1996 マッキンゼー日本支社パートナー（役員） 1999 株式会社ディー・エヌ・エー設立、代表取締役社長（～2011） 2015～ 横浜DeNAベイスターズ球団オーナー（～現在） 2017～ 株式会社ディー・エヌ・エー代表取締役会長（～現在） 2021～ 日本経済団体連合会副会長（～現在）
	やました しゅんいち 山下 俊一	1978 長崎大学医学部卒業 1990 長崎大学医学部附属原爆後障害医療研究施設教授 2011 福島県立医科大学副学長兼放射線医学県民健康管理センター長（同センター長～2013.3） 2013 長崎大学理事・副学長（～2017.9） 2018～ 福島県立医科大学理事長特別補佐・副学長（～現在） 2019 量子科学技術研究開発機構高度被ばく医療センター長（～2021.3） 2021 同機構量子生命・医学部門放射線医学研究所長（～2023.3）

分野長・副分野長

概要

分野長、副分野長は、各分野における研究開発を戦略的に推進していくため、各分野において専門的知見を有する外部の研究者を分野長及び副分野長として任命しているもの。

➤ 分野長

担当する分野における研究課題を具体化し、研究の進め方等に係る調整・管理を行い、また、将来のF-REIの研究グループの確保に向けた調整など、研究に関する総括的な業務を行う。

➤ 副分野長

副分野長は分野長を補佐し、また、分野長とは異なる専門的知見に基づく研究課題の調整等を行う。

ロボット		【分野長】野波 健蔵（のなみ けんぞう） 一般社団法人日本ドローンコンソーシアム 会長
		【副分野長】松野 文俊（まつの ふみとし） 大阪工業大学工学部電子情報システム工学科 特任教授
農林水産業		【分野長】佐々木 昭博（ささき あきひろ） 東京農業大学総合研究所 参与（客員教授）
		【副分野長】荒尾 知人（あらお ともひと） 元農業・食品産業技術総合研究機構中央農業研究センター 所長
エネルギー		【分野長】矢部 彰（やべ あきら） 新エネルギー・産業技術総合開発機構技術戦略研究センター フェロー
		【副分野長】秋田 調（あきた しらべ） 一般社団法人電力中央研究所 名誉特別顧問
		【副分野長】錦谷 禎範（にしきたに よしのり） 早稲田大学ナノライフ創新研究機構ナノテクノロジー研究所 招聘研究員
放射線科学 ・創薬医療		【分野長】片岡 一則（かたおか かずのり） 公益財団法人川崎氏産業振興財団ナノ医療イノベーションセンター長
		【副分野長】山下 俊一（やました しゅんいち） 福島県立医科大学 副学長
		【副分野長】茅野 政道（ちの まさみち） 量子科学技術研究開発機構 理事
原子力災害に 関するデータや 知見の集積・発信		【副分野長】大原 利眞（おおはら としまさ） 一般社団法人日本環境衛生センターアジア大気汚染研究センター 所長

ロボット分野（ロボット・ドローン関係）

F-REI（福島）で研究開発を行う視点

- 複合災害を経験した福島で、廃炉や自然災害時に起きる過酷環境で機能を発揮するロボット・ドローンの研究開発を行う。

分野の方針

- 耐放射線性、耐水性、耐熱性などを備えた**高機動性**を有するロボットの開発、**自律制御**、**群制御**などを実現するための**知能化研究**、生物がもつ感覚機能などを高める機能拡張研究などを行う。それらの成果を活用して、廃炉や災害時、宇宙空間などの過酷環境下で稼働できる**高機動性ロボット**の開発、高ペイロードで長時間飛行が可能な**高機能ドローン**の開発、**自律移動型ロボット**の開発などを推進する。

具体的な研究課題例

- 困難環境下でのロボット・ドローン活用促進に向けた研究開発
- 長時間飛行・高ペイロードを実現し、カーボンニュートラルを達成するドローンの研究開発
- フィールドロボット等の市場化・産業化に向けた性能評価手法の標準化
- 防災・災害のためのドローンのセンサ技術研究開発
- 廃炉向け遠隔技術高度化及び宇宙分野への応用



困難環境の作業ロボット・ドローン（イメージ）

F-REI（福島）で研究開発を行う視点

- 震災により大規模な休耕地や山林を有する地域特性を考慮し、従来発想を超えた次世代農林水産業に挑戦する。従来発想を超えた新しい技術シーズの活用も行う。

分野の方針

- 農林漁業作業の完全自動化・ロボット化・スマート化などによる超省力化・超効率化と、森林資源の有効活用などにより**多収益・大規模モデル確立**によって地域循環型経済モデルの構築を目指す。一方で、RIトレーサー活用による**品種改良、有機栽培、汚染土壌改良**に関する基礎研究を推進する※。

具体的な研究課題例

- 超省力的な土地利用型農業生産技術に向けた技術開発・実証
- 輸出対応型果樹生産技術の開発・実証
- 先端技術を活用した鳥獣被害対策システムの構築・実証
- 施設園芸におけるエネルギー循環利用技術体系の構築と実証
- 化学肥料・化学農薬に頼らない耕畜連携に資する技術の開発・実証
- 未利用農林業資源を活用した新素材の開発
- 福島浜通りの農林業復興の将来方向性に関する研究
- 林業のスマート化、自動化に関する研究

この他、福島浜通り地域における研究開発、産業化、人材育成等を一体的に推進するため、民間団体等からの提案に基づいた研究開発を実施。



小型トラクターの無人走行の様子



鳥獣による農作物被害

※令和5年度は、第4分野（放射線科学・創薬医療）において、RIを用いた植物体内における元素動態の可視化等を実施予定

F-REI（福島）で研究開発を行う視点

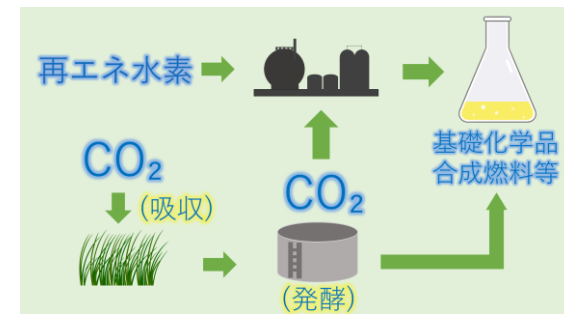
- 既存の水素関連設備等を活用し、カーボンニュートラルを地域で実現する。合わせて先駆的なスマートコミュニティの実現に寄与する。

分野の方針

- 福島を日本のカーボンニュートラル先駆けの地とするために、**再生可能エネルギー**を中心に、**エネルギー製造、貯蔵、輸送、利用**に関わる研究開発を行い、そのなかで社会実装を目指しての**リスク評価、法規制、技術基準の策定**なども課題とする。**水素・アンモニア**などを使ったエネルギー活用、**CO2回収**やエネルギー源としての利用などに関する研究を推進する。再生可能エネルギーの活用をベースとすることでカーボンニュートラル、さらにはネガティブエミッションが実現可能なことを実証し、その展開により持続可能な社会の実現に貢献する。

具体的な研究課題例

- ネガティブエミッションを実現するコア技術開発
早生かつCO2を大量吸収する植物生産技術、海藻類のCO2固定機能を活かしたブルーカーボン開発、その回収・貯留付きバイオマス発電（BECCS）
- バイオ統合型グリーンケミカル技術開発
CO2還元能力の高い触媒開発、多収性植物・発酵微生物を組合わせた高効率CO2回収濃縮型バイオプロセス
- 水素社会の実現を目指した水素エネルギーネットワークの構築と実証
再生可能エネルギーを利用した水素エネルギーを電力系統と連携して利用するためのシステム設計及び最先端材料開発技術の研究開発



バイオ統合型グリーンケミカル技術（イメージ）

F-REI（福島）で研究開発を行う視点

- 福島の複合災害からの創造的復興の研究基盤として、放射線科学（核物理学、放射化学、放射線環境科学、核医学・創薬、電子デバイスなど）を据え、その利活用の検討を行う。

分野の方針

- ウェル・ビーイングへの貢献を目指して、**放射線利用**に関する基礎研究に加えて、**医療**のみならず農業、工業分野での**産業利用**を見据えた技術開発を推進する。医療分野では放射線トレーサーを利用した**診断技術の開発**や、放射線標識化合物による**がん標的薬の開発**、農業および工業分野では放射線を利用した**計測科学研究**と技術開発を推進する。

具体的な研究課題例

- 医療や農業等の応用先を見据えた放射性核種の安定的かつ効率的な製造技術の開発
- RIを適切な場所（がん細胞など）に特異的に送達する化合物や技術（薬物送達システム（DDS: Drug Delivery System））の開発
- 農作物の生産性向上や安全な作物生産に資するRIイメージング技術の開発
- RIの活用を促進するためのフィージビリティ調査
- 超大型X線CTシステム技術の検討



RIを利用した植物イメージング

F-REI（福島）で研究開発を行う視点

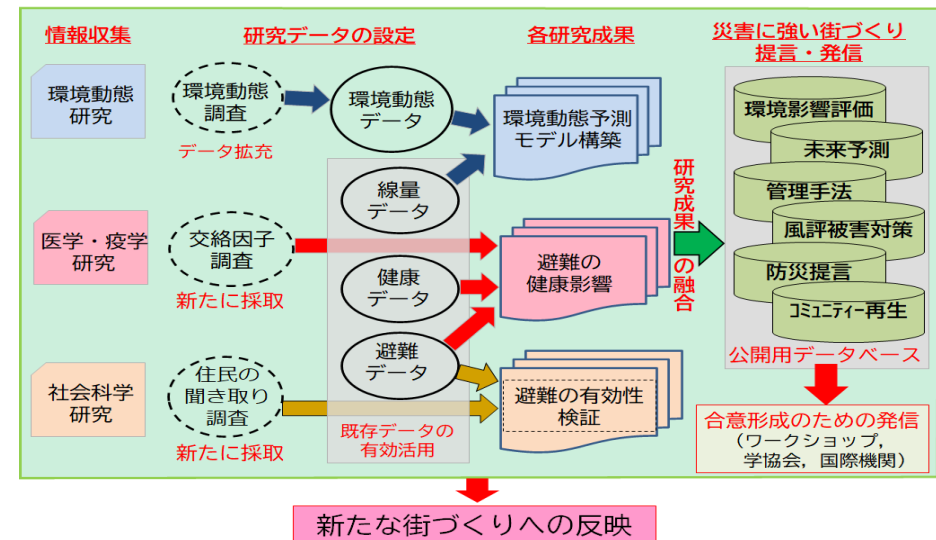
- 福島の複合災害から得られる様々なデータを集積し、知見を伝承することで、来るべき今後の災害への対策に資するとともに、まちづくりに貢献する

分野の方針

- 森林の植生、土壌など放射能汚染からの環境回復にかかる**環境動態計測の継続とデータベースの構築**、それらの**情報発信**と、コミュニティの合意形成を促進する**社会科学研究**を推進することで、**未来の活気あるまちづくりに貢献**する。

具体的な研究課題例

- 放射性物質の環境動態研究
- 関連機関、地域に存在する関連データの集積とデータベース化
- 複合災害に関する社会科学的知見との融合による情報の高付加価値化
 - ✓ 環境影響評価、将来予測、防災のための伝承
- ワークショップや国際連携による提言と発信
- 地域と一体となった長期的復興・再生まちづくりへの展開



原子力災害に関するデータや知見の集積・発信

F-REI 産学官ネットワーク・セミナー

産学官ネットワークセミナーは、東北の復興を見据え、東北の企業他を巻き込んだ産学官の連携体制構築の機会とするため、F-REIとの連携を含めた産学官連携や産業化について、トークセッション等を実施するもの。

第2回 F-REI 産学官ネットワークセミナーの概要

- 主催：F-REI・東北経済連合会
- 日時：令和5年10月12日（木）13:30～16:00
- 会場：TKPガーデンシティ仙台ホール
- 参加者：民間企業、団体、大学、地元自治体等より、76社等156名
- 実施内容：（うち、延べ23社等43名はオンライン参加）

・第一部 講演

産学官連携・産業化をテーマとして若生氏、海老原氏、小池氏を講師としてお招きし、沿革と現在の取り組みについて、御講演いただいた。

- ①若生 裕俊 富谷市長
「『住みたくなるまち日本一』を目指して
～100年間ひとが増え続けるまち 村から町へ 町から市へ～」
- ②海老原 城一 AiCTコンソーシアム代表理事
「スマートシティ会津若松の挑戦」
- ③小池 美穂 株式会社マテリアル・コンセプト代表取締役CEO
「ベンチャーにおける産学官連携の必要性」

・第二部 トークセッション

講師3名にF-REI江村理事を加え、佐々木モデレータの司会のもと、これからの産学官連携・産業化及びF-REIに対する期待について御議論いただいた。

～これからの産学官連携と産業化ビジョン、F-REIへの期待～

- パネリスト：①若生 市長
②海老原 代表理事
③小池 代表取締役CEO
④江村 克己 F-REI理事

○モデレータ：佐々木 啓一 宮城大学 学長

スケジュール

【実施済み】

第1回：令和5年1月13日

第2回：令和5年10月12日



山崎理事長 開会挨拶



会場の様子

連携大学院制度を活用した人材育成の取組

連携大学院制度は、大学と機構が協力し、機構における先端科学の研究開発機能を活用しながら学位を付与することで高度な専門知識や技術を持つ研究者を育成する制度。

これまでの取り組み

- 令和6年3月8日に東北大学大学院医学系研究科と「放射線環境生体医学連携講座」の設置に関する協定を締結。

連携講座の概要

- 環境物質の生体影響に知見のある医療人材の育成
 - ・放射性物質を含む種々の環境物質が、人々の健康に与える影響とそのメカニズムの研究、さらに災害関連疾患の予防や治療にあたる医療人材を育成。
- 放射線や種々の環境物質と生体応答の関係の研究推進・発展
 - ・研究シーズの発掘から信頼できるデータに基づいた一般市民の放射能への不安感の払しょく、そして復興へ。



《 連携大学院（連携講座）の設置 》
『放射線環境生体医学連携講座』



F-REI トップセミナー

福島の創造的復興と発展を中長期的に支える地域の未来を担う若者世代等を対象とした人材育成の取組の一環として、新産業創出等研究開発協議会の4機関を対象に、F-REI役員が自らの経験を通じて研究者としてのやりがいなどを伝えるもの。

トップセミナーの概要

- 開催時期：令和6年5月～6月
- 講師：山崎光悦理事長ほかF-REIの役員
- 実施内容：
以下に関する講義を実施
 - 自身の経験を通じた研究者としてのやりがい
 - 最先端の科学技術の魅力と可能性
 - 学ぶことの重要性和未来をどう築くか
 - F-REIの役割と将来像 等



実施対象

- 実施対象：
新産業創出等研究開発協議会の4機関

スケジュール

- | | | |
|-------|-------------|----------|
| 5月13日 | 福島大学 | (江村理事) |
| 5月30日 | 会津大学 | (山崎理事長) |
| 6月10日 | 福島工業高等専門学校① | (森下監事) |
| 6月11日 | 福島工業高等専門学校② | (森下監事) |
| 6月19日 | 福島県立医科大学 | (大和田執行役) |



体験学習会の事例

10月15日（日）に福島浜通り地域の子供たちに、科学を身近に感じていただこうと、子供向けの科学教室を開催している網倉優子先生（東京）をお招きし、一緒にペットボトルロケットを自作して、打ち上げを行った。

参加者の声（アンケート結果より）

- 子どもと一緒に、また無料で参加できるということで楽しい経験になった。F-REIの発展につながるイベントがあれば、また参加してみたい。
- 理科、科学に興味を持ち今後の職業の選択に役立ててもらえたらと思っています。
- 子供と親と一緒に参加できるイベントをもっと開催してほしい。
- F-REIの名前は知っていたが、どのようなことをしているのかわからなかった。今回のイベントで少し知ることができた。子供が楽しんでいたので、またこういった機会があれば参加したい。



F-REI特別企画

福島国際研究教育機構(F-REI)とは、令和5年4月、浪江町に開所した研究教育機関です。ロボットなど全5分野における先進的な研究開発を通じて、創造的な復興の実現を目指します。

親子わくわく科学実験教室

～ペットボトルロケットをつくってとばそう～

日時 10月15日(日) 9:30～12:30

場所 ふれあい交流センター
(浪江町大字権現堂字矢沢町40-1)

対象 小学生と保護者
(1組あたり子ども最大2名、保護者最大2名)

持ち物 子ども1人あたり、空の1.5L炭酸飲料ペットボトル1本
※くびれがなく寸胴のもの (c.c.レモンや三ツ矢サイダー等)

定員 10組 (申し込み多数の場合は抽選)

参加費 無料

講師 ゆうこ博士 (博士 生命科学)
(千葉工業大学惑星探査研究センター 非常勤研究員)



自分で作ったロケットを
飛ばしてみよう！

【申し込み方法】

QRコードからお申込みください
抽選結果は後日メールにてご連絡いたします
申し込み締め切り：10月4日(水)まで



【お問合せ】 福島国際研究教育機構(F-REI) 経営企画課
電話番号：0240-41-9965、メールアドレス：f-rei_keikika@f-rei.go.jp
イベントの様子を撮影させていただき、webサイト等に使用させていただきます。
また、当日は取材が入る可能性があります。あらかじめご了承ください。

新産業創出等研究開発協議会（協議会）について

協議会の概要

- 福島復興再生特別措置法第109条の規定に基づき、新産業創出等研究開発等施策の実施に関し必要な協議を行うため、組織されたもの。
- 協議会等の議論を通じ、研究開発における役割分担の明確化や重複の排除等により、福島全体で最適な研究開発体制を構築するなど、既存施設等の取組に横串を刺す司令塔としての機能を最大限に発揮する。

協議会の組織

協議会

- ・各WGでの議論・決定等を踏まえた、新産業創出等研究開発施策の実施に関する司令塔機能の発揮を図る
- ・7府省庁、福島県、浜通り地域等15市町村、大学、研究機関等の35の構成員が参画

広域連携ワーキンググループ（WG）

- ・研究開発・産業化・人材育成の取組におけるF-REIを核としたパートナーシップによる広域連携体制の構築を図る
- ・福島県、浜通り地域等15の市町村等が参画

研究開発等ワーキンググループ（WG）

- ・研究開発等における諸課題についての議論を実施
- ・大学、研究機関等が参画

令和6年度 開催予定

令和6年7月 第2回広域連携WG
8月 第3回協議会

令和5年度 開催実績

令和5年5月10日 第1回協議会（於：大熊町）
令和5年9月27日 第1回広域連携WG（於：楡葉町）
令和5年12月8日 第1回研究開発等WG（オンライン）
令和6年1月12日 第2回協議会（於：富岡町）

【第2回協議会概要】

F-REIの活動状況、各ワーキンググループの開催内容についてF-REIから、令和6年度予算概算決定及び施設整備の状況について復興庁から報告した後、市町村座談会等を通じて得られた課題等について、構成員による活発な意見交換が行われた。



↑ 第2回協議会開催の様子

連携協力に関する基本合意書（MOU）等の締結について

研究開発等の機構のミッションを円滑に進めるとともに、機構設置の効果を広域的に波及させるため、これまでに福島県内の12つの機関と連携協力に関する基本合意書（MOU）や包括連携協力協定書を締結。

連携協力に関する基本合意書の概要

○内容

研究開発・人材育成等における連携、双方の資源を有効的に活用した協働活動等、締結先に応じた協定を締結

○締結先一覧

締結日	締結先
令和5年4月1日	福島高専
令和5年4月5日	福島県立医科大学
令和5年4月15日	いわき市
令和5年5月17日	福島大学
令和5年5月29日	浪江町
令和5年5月30日	会津大学
令和5年9月1日	南相馬市
令和6年1月25日	株式会社東邦銀行
令和6年3月8日	東北大学
令和6年6月7日	学校法人昌平黉
令和6年6月14日	福島県、イノベ機構

今後も福島や全国の大学、教育機関、研究機関、企業、市町村等との締結を予定



福島高専との連携協力



浪江町との連携協力

市町村座談会について

市町村座談会は、研究開発・産業化・人材育成の取組における広域連携体制の構築を図るため、市町村や住民、企業・団体等、多様な主体と対話する場として実施しているもの。

令和6年度は、F-REI設置の効果を浜通り地域等だけではなく、復興に取り組む地域全体に広域的に波及させるため、浜通り地域等に加え、中通り、会津でも実施する。

座談会の概要

- 市町村長のほか、地域で活躍する人材や企業等との直接対話
- 多様なシーズやニーズを把握するための現地視察や意見交換

－座談会のプログラム（例）－

- ・（F-REIの取組紹介を含めた）講演
- ・地域の関係者との座談会
- ・地域の先進的な企業等を現地視察、意見交換（2～3か所程度）

令和6年度 開催予定

- 浜通り地域等 2回程度
市町村別ではなくテーマ別での開催を予定
- 中通り・会津 4回
 - ・令和6年 7月 県中地域（郡山市）
 - ・令和6年10月 県北地域（福島市）
 - ・令和6年11月 会津地域（会津若松市）
 - ・令和7年 1月 県南地域（白河市）

令和5年度 開催実績

令和5年6月20日	いわき市	令和5年11月 6日	飯舘村
7月 5日	南相馬市	11月17日	楢葉町
7月27日	葛尾村	12月 4日	大熊町
8月 9日	浪江町	12月19日	相馬市
8月29日	田村市	令和6年 1月18日	川俣町
9月29日	広野町	1月30日	双葉町
10月11日	富岡町		
10月17日	川内村		
10月23日	新地町		



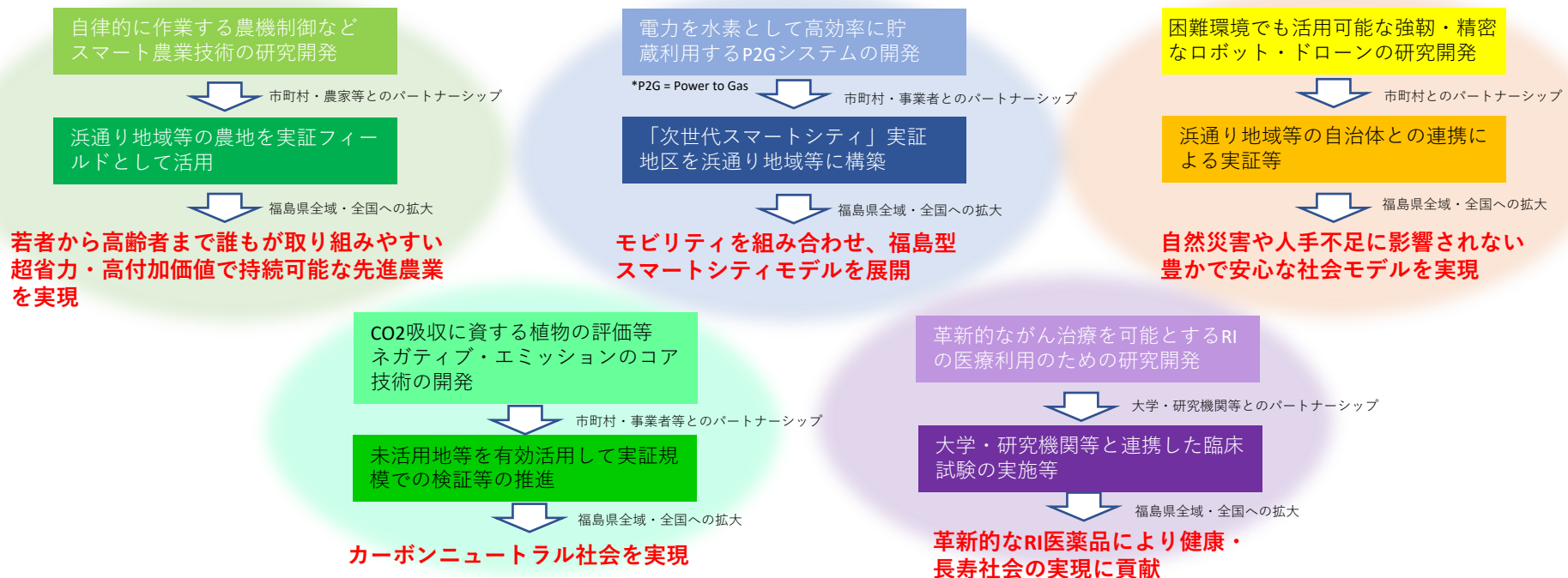
参考資料

F-REIを核とした浜通り地域等との広域連携による効果波及について

(基本的考え方)

- ◆ 福島国際研究教育機構の事業は、本施設の立地近接地域だけでなく、復興に取り組む地域全体（浜通り→福島県全域→被災地全体）にとって「創造的復興の中核拠点」として実感され、その効果はさらに全国へと広域的に波及するものでなければならない
- ◆ まずは、機構が取り組む5分野に関連する既存の研究拠点や教育機関等のシーズだけでなく、地域における機構への期待や具体的なニーズを、様々な対話を通じて丁寧に把握していく
- ◆ それを踏まえ、機構を核として、地域の市町村や住民、企業・団体等との間で様々な形のパートナーシップで連携することが重要
- ◆ 浜通り地域等を中心に、機構の施設の中だけでなく、施設の外も含めて広域的なキャンパスとしてとらえ、「世界でここにしかない多様な研究・実証・社会実装の場」を実現し、国際的に情報発信する
- ◆ これにより、地域における産業の集積、人材の育成、暮らしやすいまちづくり等を進め、福島・東北の創造的復興、さらには日本創生を牽引するものとする

(機構を核としたパートナーシップによる事業展開のイメージ例)



福島国際研究教育機構関連事業（復興庁、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省及び環境省）

令和6年度予算額 **155億円**
（令和5年度予算額 146億円）

東日本大震災復興特別会計 154億円
一般会計 1億円

事業概要・目的

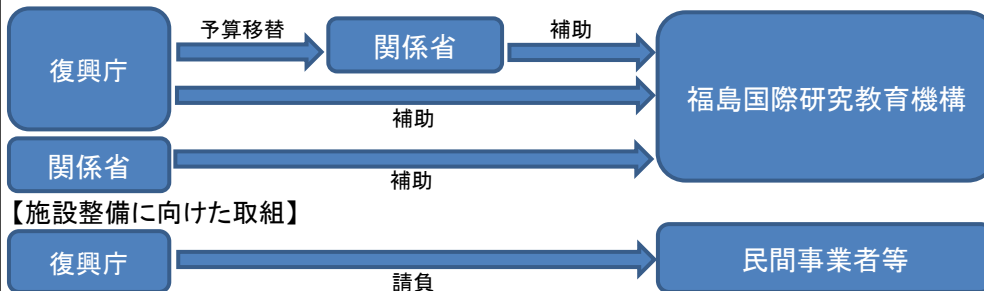
- 福島をはじめ東北の復興を実現するための夢や希望となるとともに、我が国の科学技術力・産業競争力強化を牽引する、世界に冠たる「創造的復興の中核拠点」となることを目指す「福島国際研究教育機構」を令和5年4月に設立した。
- 機構では、中期目標及び中期計画に基づき、「基盤作りと存在感の提示」に重点を置き、機構の施設が整備される前にもできる限り早期に成果が得られるよう、研究開発等に取り組む。併せて、機構の施設整備に向けた取組を着実に実施する。
- このため、令和6年度において、機構における運営管理、研究開発事業等の実施に必要な予算及び施設整備に向けた取組の実施に必要な予算を計上する。

期待される効果

- 福島国際研究教育機構の業務を円滑かつ着実に実施することで、福島や東北の復興及び我が国の科学技術力・産業競争力の強化に貢献する。

資金の流れ

【法人運営等、研究開発・産業化・人材育成】



事業イメージ・具体例

<>内は令和5年度予算額

（1）法人運営等

- ・ 機構の運営管理
- ・ 専門人材の配置による研究開発等の支援体制の充実
- ・ 研究開発シーズの実現可能性を調査するFS調査の実施
- ・ 新産業創出等研究開発協議会等の開催による司令塔機能発揮
- ・ 機構の認知度向上に向けた取組 等

※一般会計計上の法人運営費含む

20億円 <17億円>



（2）研究開発事業等（研究開発・産業化・人材育成）

- ・ 5分野の研究開発の推進
- ・ 研究開発の成果の産業化に向けた検討
- ・ 研究者による出前授業等の実施 等

99億円 <126億円>



（3）施設整備に向けた取組

- ・ 施設等の設計
- ・ 用地取得事務、敷地造成に向けた準備工事 等

36億円 <3億円>



研究分野

【①ロボット】

複合災害を経験した福島で、廃炉や災害現場等の過酷環境で機能を発揮するロボット・ドローンの研究開発を行う。

【②農林水産業】

震災により大規模な休耕地や山林を有する地域特性を考慮し、新しい技術シーズの活用など、従来にはない次世代農林水産業に挑戦する。

【③エネルギー】

既存の水素関連設備等を活用し、カーボンニュートラルを地域で実現する。併せて先駆的なスマートコミュニティの実現に寄与する。

【④放射線科学・創薬医療、放射線の産業利用】

福島の複合災害からの創造的復興の研究基盤として、放射線科学（核物理学、放射化学、核医学など）を据え、放射線やRIの利活用の検討を行う。

【⑤原子力災害に関するデータや知見の集積・発信】

福島の複合災害から得られる様々なデータを集積し、知見を伝承することで、来るべき今後の災害への対策に資するとともに、まちづくりに貢献する。

福島国際研究教育機構 研究費 令和6年度予算額 99億円（令和5年度予算額 126億円）

- 福島国際研究教育機構（F-REI）は、**福島をはじめ東北の復興を実現するための夢や希望となるとともに、我が国の科学技術力・産業競争力の強化を牽引し、経済成長や国民生活の向上に貢献する、世界に冠たる「創造的復興の中核拠点」を目指す。**
- F-REIにおいて、中期目標、中期計画等を踏まえながら、**日本や世界の抱える課題、地域の現状等を勘案し、福島の優位性を発揮できる以下の5分野を基本とした研究開発を実施する。**

各分野の主な事業

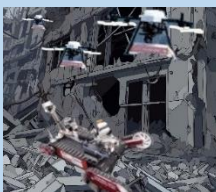
注：（ ）は令和5年度予算額

【①ロボット】24.0億円（39.7億円）

複合災害を経験した福島で、廃炉や災害現場等の過酷環境で機能を発揮するロボット・ドローンの研究開発を行う。

（令和6年度の研究内容）

- 困難環境下でも機能発揮する作業ロボット・ドローンの研究
- 福島でのロボット競技大会等を通じた、性能評価手法の研究
- 長時間飛行・高ペイロードを実現し、カーボンニュートラルを達成するドローンの研究
- 防災・災害のためのドローンのセンサ技術の研究
- 廃炉を想定した遠隔操作等の要素技術の研究



困難環境の作業ロボット・ドローン（イメージ）

【②農林水産業】19.2億円※（14.0億円）

※予算集約5.8億円（6.7億円）含む

震災により大規模な休耕地や山林を有する地域特性を考慮し、新しい技術シーズの活用など、従来にはない次世代農林水産業に挑戦する。

（令和6年度の研究内容）

- 土地利用型農業における超省力生産技術の技術開発・実証
- 輸出拡大に貢献する果樹生産技術の開発・実証
- 施設園芸向け地域内エネルギー循環システムの構築
- 立木伐採、下刈り作業等林業の自動化・省力化技術の開発・実証
- 農林水産分野の先端技術展開事業＜予算集約＞



遠隔監視システムの開発（超省力生産技術開発）

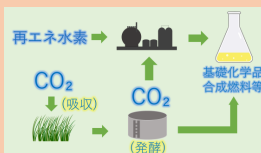
【③エネルギー】31.6億円※（29.6億円）

※予算集約7.5億円（7.5億円）含む

既存の水素関連設備等を活用し、カーボンニュートラルを地域で実現する。併せて先駆的なスマートコミュニティの実現に寄与する。

（令和6年度の研究内容）

- ネガティブエミッション（BECCS/ブルーカーボン等）のコア技術の研究開発・実証
- 多収性植物からのバイオエタノール生産等のラポレベルでの実施、CO₂及び水素を利用した化学品製造工程設計
- 電力・水素エネルギー連携システムの設計、先端的な水素材料開発手法の設計
- 被災地企業等再生可能エネルギー技術シーズ開発・事業化支援事業＜予算集約＞



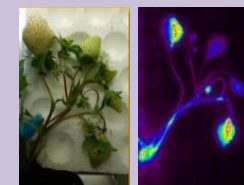
バイオ統合型グリーンケミカル技術（イメージ）

【④放射線科学・創薬医療、放射線の産業利用】16.1億円（33.7億円）

福島の複合災害からの創造的復興の研究基盤として、放射線科学（核物理学、放射化学、核医学など）を据え、放射線やRIの利活用の検討を行う。

（令和6年度の研究内容）

- アルファ線放出核種等を用いた新たなRI医薬品の開発に向けた基礎研究及び非臨床試験等の実施
- 農作物におけるRIイメージング技術の開発
- 超大型X線CT装置開発にかかる要素技術の研究開発の推進



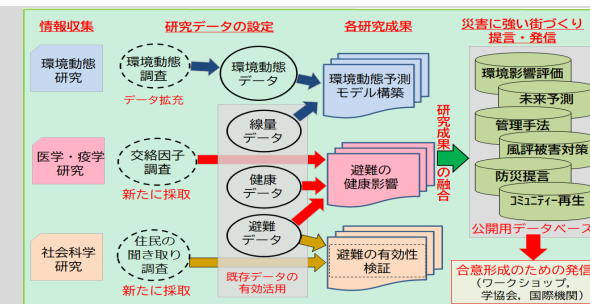
RIを利用した植物イメージング

【⑤原子力災害に関するデータや知見の集積・発信】8.2億円（9.0億円）

福島の複合災害から得られる様々なデータを集積し、知見を伝承することで、来るべき今後の災害への対策に資するとともに、まちづくりに貢献する。

（令和6年度の研究内容）

- フィールド調査及び室内実験により、放射性物質の生態系内での循環及び自然資源（山菜類・淡水魚など）への移行挙動を解明
- 放射性物質の環境中での挙動を再現・予測する数値モデルを精緻化
- 被災者・コミュニティ・被災地域等の再生・創生研究、人材交流・地域活動をリードする人材の育成、それらの実装化に向けたネットワークや様々な研究者等が関わるハブ機能の構築
- 「福島の経験」から得たデータや知見を集積し、医学的、自然科学的、社会科学的視点から検証するとともに、その検証結果を取りまとめ、原子力災害への備えを提言



原子力災害に関するデータや知見の集積・発信

福島国際研究教育機構の施設基本計画＜概要＞

令和6年1月30日 復興大臣決定

はじめに

「福島国際研究教育機構基本構想」（令和4年3月29日復興推進会議決定）において、F-REIが着実に業務を本格実施できるよう、当初の施設整備は国が行い、令和5年度までに設計条件を盛り込んだ施設基本計画を取りまとめることとされている。

本計画は、復興庁に設置した「福島国際研究教育機構施設の在り方に関するアドバイザー会議」で取りまとめた「福島国際研究教育機構の施設基本計画策定に向けて」を踏まえたものである。

施設整備の方向性

多様な研究開発活動に応じた施設づくり

- ・「創造的復興の中核拠点」にふさわしいシンボル性を持った環境の創出
- ・イノベーションを起こす研究開発の実施に資する空間の創出
- ・分野横断的な融合等を促進する交流・連携空間の創出
- ・若手や女性、外国人などの多様な研究者の活躍を支える環境整備等

周辺環境や景観に配慮した施設づくり

- ・土木と建築、ランドスケープの一体的な検討
- ・浪江駅周辺のまちづくりとのつながりを考慮等

研究者や地域の方々に親しみやすい施設づくり

- ・F-REI研究者や地域住民等来訪者の交流空間の創出等

安全で快適な施設づくり

- ・耐震性能の確保や浸水対策の実施
- ・施設内外において適切なセキュリティレベルを設定等

地球環境にやさしい施設づくり

- ・再生可能エネルギーや水素等グリーンエネルギー活用の検討
- ・ZEB化や木材利用の検討等

段階的供用及びサステナブルな施設づくり

- ・研究活動等の早期の本格化を目指し、各施設を順次段階的に供用開始
- ・将来的な施設の拡張性や更新のしやすさ等を考慮した配置計画等

研究開発等環境の充実に資する施設整備に向けた重点方針

研究開発等環境（総論）

分野横断的・学際的な研究の促進／共同研究等を促進するための産学連携交流スペースの配置等

交流・連携

天候や気候に影響を受けずに自由に出入りができるオープンスペースの整備／ホール、大会議室、広報・展示室等の整備等

防災・減災

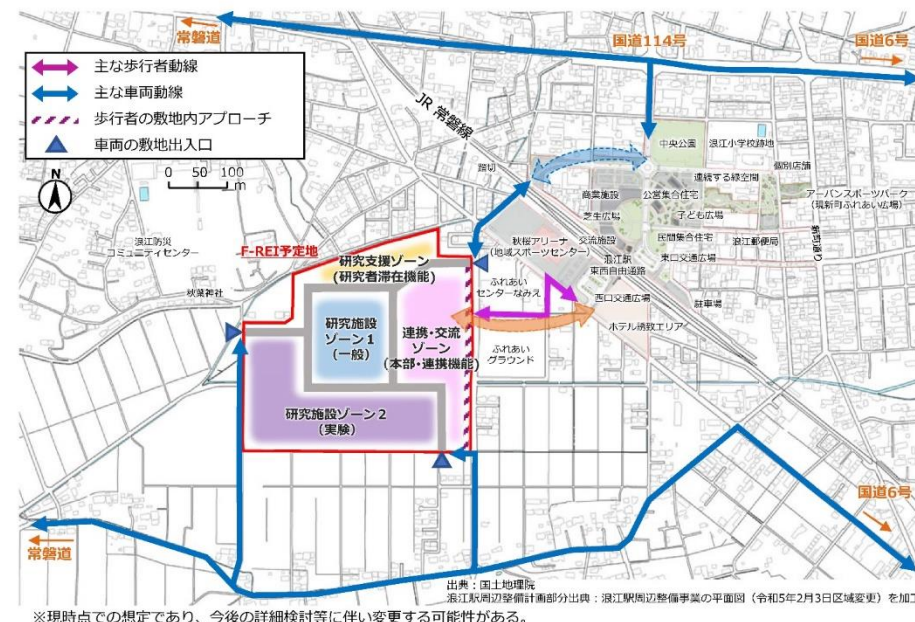
耐震・浸水対策（盛土等）／研究の継続性／地域防災の向上への貢献等

環境・サステナビリティ

エネルギー管理システムの構築／緑地空間の創出／省エネルギー化や耐久性の確保等

ゾーニング図／動線図

本敷地の都市計画事業における都市施設（研究施設）の面積は約16.9万㎡。



ゾーン名	主な施設	
連携・交流ゾーン	本部施設	管理・運営を担うための施設
	本部機能支援施設	F-REI関係者の研究活動・職務を支援するとともに、F-REIの活動や研究成果を広報・展示するための施設
	図書・情報施設	研究者等が文献調査を行うほか、研究データの保管等のためのサーバーを設置するための施設
	講堂・ホール施設	研究成果の発表や人材育成のための講義、見学者等の来訪者への情報発信等を行うための施設
研究支援ゾーン	短期宿泊施設	連携大学院制度による大学院生や共同研究等のためのポストドクター等が一時的に滞在するための施設
研究施設ゾーン1	研究実験施設	F-REI研究者や共同研究者等が日常的に滞在し、研究活動を行うための施設
研究施設ゾーン2	固有実験施設	F-REI研究者や共同研究者等が高度な研究活動を行うための施設
－	その他	中央監視施設や廃棄物処理施設、受変電施設等を想定

工期

- ・復興庁設置期間内での順次供用開始を目指し、さらに可能な限り前倒しに努める。